

2025

体験の風を
おこそう

事業報告

独立行政法人国立青少年教育振興機構委託事業

大分県地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

大分県「体験の風をおこそう」実行委員会

大分県立香々地青少年の家

大分県立九重青少年の家

Contents

目次

01	大分県地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動について	・・・P	1
02	大分県「体験の風をおこそう」実行委員会	・・・P	1
03	子どもの体験活動拡充		
	①わくわくサマーキャンプ	・・・P	2
	②防災忍術を学ぶ！秋の防災忍者キャンプ	・・・P	3
	③いのちからうまれる革細工体験教室	・・・P	4
04	郷土の環境を活かした体験活動「香々地・九重自然学校」		
	④マリンスポーツ体験教室	・・・P	5
	⑤ここのえdeトレッキング	・・・P	6
	⑥星とたき火とテント泊 / 200ミリ望遠鏡の世界	・・・P	7
05	宇宙教育推進に向けた体験活動		
	⑦香々地宇宙学校	・・・P	8
06	体験格差是正のための体験活動「野外活動塾」		
	⑧宿泊体験（海水浴）	・・・P	9
	⑨スキー体験教室（九重）	・・・P	10
07	体験活動推進に向けた啓発活動		
	⑩体験活動ミーティング「海フェス」	・・・P	11
	⑪体験活動ミーティング「森フェス」	・・・P	12
	⑫「読書活動の充実に向けた～本との出会い広場～」	・・・P	13
08	次世代の人材育成に向けた活動		
	⑬青少年指導者養成研修	・・・P	14
09	令和7年度大分県「体験の風をおこそう」事業一覧（広報チラシ）	・・・P	15
10	事業を通じた成果と課題	・・・P	16
11	御協力いただいた企業・団体	・・・P	18

01 令和7年度大分県地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動について

大分県では、地域ぐるみ、すなわち「人とのつながり」を基盤として、郷土の豊かな自然と子どもたちが出会い、実体験を重ねる場を創出するため、国立青少年教育振興機構が推進する「体験の風をおこそう」運動に取り組んできました。本事業は令和7年度で5年目を迎え、青少年教育関係機関・団体、地域住民、行政が連携し、体験活動を通じた人づくり・地域づくりの取組として着実に歩みを重ねています。

近年、社会環境や生活様式の急速な変化により、子どもたちが自然の中で遊び、仲間と関わり、試行錯誤を通して学ぶ機会は減少しつつあります。こうした中、自然体験や生活体験といった「直接体験」は、五感を働かせ、自ら考え行動する力、他者と協働する力を育むうえで、ますます重要な意味を持っています。また、基本的な生活習慣の確立や、自己肯定感・社会性の涵養においても、体験活動が果たす役割は大きいものがあります。

令和7年度も、前年度に引き続き香々地・九重両青少年の家が連携し、活動フィールドや内容の充実を図りながら、多様で質の高い体験活動を展開しました。「わくわくキャンプ」や「自然学校」「宇宙学校」をはじめ、体験格差の是正を目指した「野外活動塾」、県民への啓発イベント、青少年指導者育成事業などを通して、地域全体で体験活動を支える機運の醸成に努めました。

ふるさと大分の自然、歴史、文化に触れ、その価値に気づき、誇りを持って地域を担う次代の人材へと成長してほしい……。その願いを胸に、本事業を通して「体験の風」が県内各地に広がっていくことを期待しています。

02 令和7年度大分県「体験の風をおこそう」実行委員会について

本年度も事業開始にあたって、多様な団体の代表者による実行委員会を組織し、新たな取組の可能性、団体のネットワークづくり、広報活動の視点などについて協議しました。具体的には、令和7年度の事業方針と計画について、自然や大地のエネルギーを体感する体験活動を軸に、自己効力感の向上や家族の学びを育むことをねらいとした事業展開に取り組むことを確認しました。また、成果を定量・定性的に捉える視点や、関心の薄い層へのアプローチ、継続参加につながる仕組みづくりの重要性を共有しました。さらに、社会教育関係団体や地域人材との連携強化、香々地・九重の魅力を発信する広報の在り方について意見交換を行い、令和7年度大分県地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動をスタートしました。

【委員】（敬称略・五十音順）

石川 優生 （有限会社 石川建設 専務取締役）
内野 徳泰 （大分県立香々地青少年の家所長）
衛藤 亀鶴 （大分県PTA連合会副会長）
高見 大介 （NBU日本文理大学人間力育成センター長 工学部准教授）
谷 知英 （国東市協育コーディネーター）
福田 聡子 （くにさき半島七郷ネイチャー隊長）
藤井 康子 （大分大学教育学部 教授）
渡辺 能賢 （大分県教育庁社会教育課 主任社会教育主事）

【開催日】

第1回 令和7年6月23日（月）
第2回 令和8年2月9日（月）・・・現地開催とオンライン配信を併用して実施

わくわくサマーキャンプ

対 象：県内小学校5年生～中学校3年生
 日 時：令和7年8月16日～19日
 参加者：小学生9名・中学生12名

県内の小中学生21名と、大学生サポーター7名の異年齢集団で、野外炊飯・星空観察・竹の食器づくり・海活動（いかだ・SUP）・魚釣り・魚さばき等の体験活動をした3泊4日のキャンプ。「失敗OK」・「みんなでチャレンジ」・「プラスの言葉応援」を合言葉に、仲間と協力し合いながら課題を乗り越えることで、自己効力感の向上を図りました。

みんなでチャレンジする“ひと夏”の冒険



- ・ときめきをいちばん感じたのはいかだです。班の皆と力を合わせて前進しました。
- ・仲間を大事にし、力を合わせて物事に取り組むことが大切だと感じました。
- ・このキャンプで心身ともに大成長できたと思います。この体験を生かしてこれからの日常生活でも自分ができることを増やしていきたいと思います。

参加者の声

わくわくオータムキャンプ 防災忍術を学ぶ！秋の防災忍者キャンプ

対 象：県内小学校5年生～中学校3年生
日 時：令和7年11月22日～23日
参加者：小学生5名・中学生3名



震度6強の地震と津波を想定し、災害体験から避難生活までを含む、よりリアルな災害体験を行いました。電気・ガス・水道が止まった状況下。そのような中で役立つのが「防災忍術」です。参加者は10の任務にチームで挑戦し、がれきからの救出やビニール袋を使った初期消火などを実践。自分たちで最適な行動を考えながら取り組むことで、自助・共助の力を身につけました。忍者の世界観を取り入れ、防災を「楽しく、深く」学ぶ2日間となりました。

忍者の知恵や心構え…それこそ「防災忍術！」



- ・今までの避難訓練にはない体験をすることができました。
- ・2日間の活動を通して「備え」の大切さに気づくことができたので、これから家に帰っても、いつ地震が起きてもいいように「備え」をしっかりしていきたい。
- ・避難所の設計では、いろいろな人が避難してくる中で、それぞれの希望を聞き入れ、優先順位をつけていかないといけないことや、看護師や通訳などの役割の方も必要なことが分かりました。

参加者の声

いのちからうまれる革細工体験教室

対 象：県内小学校5年生～中学校3年生とその保護者
 日 時：令和8年2月1日 日帰り
 参加者：6家庭21名



革細工体験を通して、生き物の命と人の暮らしのつながりを学ぶことを目的に実施しました。参加者は、身近な革製品が命からうまれていることを知り、驚きや発見の声が多く聞かれました。その後、家族でコインケースづくりに挑戦し、試行錯誤しながら世界に一つの作品を完成させました。笑顔があふれ、命への感謝とものづくりの楽しさを実感できる体験となりました。

それはいのちの“つづき”をつくること



- ・身近な革製品が命とつながっていることを初めて知り、命の大切さや感謝の気持ちを実感できました。
- ・親子でおそろいの財布を手作りでき、達成感とともに特別な時間を過ごせました。
- ・命の大切さを考えながら、年齢を問わず楽しめる体験でした。
- ・革製品を意識することは普段なかったけど、このような体験があればまた参加したいと思いました。

参加者の声

マリンスポーツ体験教室

対象：県内の小学4年生～中学3年生とご家族
 日時：令和7年9月7日
 ウィンドサーフィン参加5名
 SUP参加26組



プロウィンドサーファーの穴見知典氏を特別講師としてお招きして、ウィンドサーフィン体験教室を行いました。SUP体験教室も同日に開催。合わせて31名の方がマリンスポーツを楽しみました。難しそうなイメージがあるウィンドサーフィンですが、講師の丁寧な指導のおかげで、皆上手に波に乗ることができました。終了後は、達成感に満ちた表情を浮かべていました。夏の楽しみをまたひとつ増やすことができました。

SUP×ウィンドサーフィン



- ・プロの穴見知典さんに教えていただき、よい体験になりました。また参加したいです。
- ・風を探すのが難しかったけど、ウィンドサーフィンに乗れて楽しかったです。
- ・必要なものがしっかり準備されていて、貴重な体験となりました。家族全員初めての経験でしたが、わかりやすく教えていただき、子どもたちにとっても楽しい経験となりました。

ここのえdeトレッキング

対象：県内の小学生とその家族
定員：各回とも（6家族 20名程度）
日時 A令和7年 9月23日 4家族11名参加
B令和7年10月 5日 5家族17名参加



「ここのえdeトレッキング」は、くじゅうの豊かな自然を存分に味わう体験型プログラムです。はじめのトレッキングでは、自然をゆっくり楽しむ道と険しい山道の両方を歩き、所内を流れる沢では山の水源かん養機能を学びました。「観察の森ゾーン」では、草原と森の景観の違いから野焼きについて理解を深めました。施設外では親子で声を掛け合いながら「おにぎり山」頂上を目指し、下山後は温泉や昼食、ハンモック、スモア作り、プラネタリウム鑑賞など、秋の自然を満喫しました。

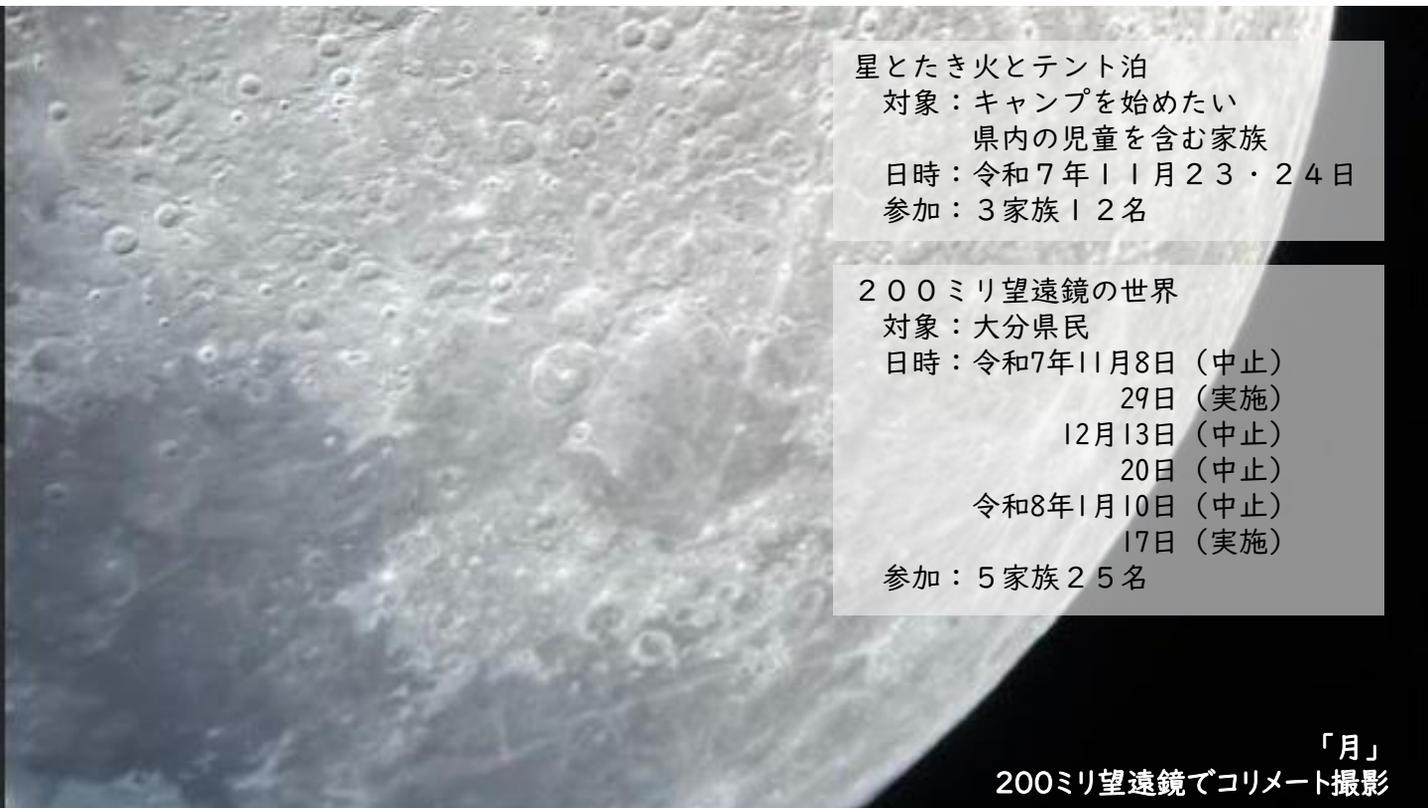
登山・温泉・プラネタリウムを家族で満喫！



- ・九重町のいろいろな景色が見えました。
- ・ヒゴタイがきれいだった。
- ・貴重な植物を大切にしたいと思いました。
- ・子どもと一緒に知らないことを知る良い機会となりました。



星とたき火とテント泊 / 200ミリ望遠鏡の世界



星とたき火とテント泊

対象：キャンプを始めたい

県内の児童を含む家族

日時：令和7年11月23・24日

参加：3家族12名

200ミリ望遠鏡の世界

対象：大分県民

日時：令和7年11月8日（中止）

29日（実施）

12月13日（中止）

20日（中止）

令和8年1月10日（中止）

17日（実施）

参加：5家族25名

「月」

200ミリ望遠鏡でコリメート撮影

「星とたき火とテント泊」では、家族で秋の九重を体感することを目的に実施しました。当日は、天気にも恵まれ、家族で思い思いの時間を過ごしていました。たき火を脇に満天の星空を眺める、とても贅沢な時間を過ごすことができました。

「200ミリ望遠鏡の世界」では、プラネタリウム室で、これから観察する星空を学習した後、望遠鏡で土星や月を観察し、「本物」を体感しました。外気温は3℃程度でしたが、実天観察では、星座の大きさや恒星のきらめきに感動したようです。

「本物」へのこだわりが、ここにある☆彡



3世代でテント設営(テント泊)



屋外で閉会行事(テント泊)



木星観察(200ミリ)

- ・これまでできないと諦めてしまうことがありましたが、テント設営では、最後まで頑張ってくれ、子どもの成長した姿を見ることができました。(テント泊)
- ・家に帰ってからは、ずっとキャンプグッズを検索しています。(テント泊)
- ・早速、星座早見盤を購入し、見た星座の復習をしてみました。(テント泊)
- ・土星が「串ダンゴ」、月のデコボコにはびっくりしました。(200ミリ)
- ・このような観察会を季節ごとに開催していただけると嬉しいです。(200ミリ)

参加者の声

香々地宇宙学校

対 象：県内の児童生徒がいるご家庭
 日 時：令和7年11月1～2日
 令和7年12月13～14日
 令和8年1月4日（日帰り）
 参加者：第1回13名/第2回19名/第3回9名



大分天文協会会長の山本幸司氏を特別講師にお招きして、計3回の香々地宇宙学校を開催しました。望遠鏡で月のクレーターや土星のリング、木星の縞模様を観察することができ、会場からは歓声上がる程、盛りあがりしました。悪天候により流星群は見られなかったものの、隕石の解説や実物に触れる体験を通して、宇宙の広がりや天体の不思議を実感しました。望遠鏡キット作りでは協力し合う姿が多く見られ、星空をきっかけに宇宙への興味関心が深まる充実した時間となりました。

見て、つくって、宇宙とつながる星空体験



- ・プラネタリウムとは違い、実物で解説していただいたことで、わかりやすく、もっと宇宙や星に対する興味を持てるきっかけにすることができました。
- ・大きい望遠鏡で綺麗に月が見えたので、嬉しかったです。
- ・流星と隕石の違いを学びました。隕石に触ることができたのも貴重な体験となりました。
- ・望遠鏡づくりでは、子どもが楽しそうに作っていました。家で月を見るのが楽しみです。

野外活動塾 宿泊体験（海水浴）

対象：別府平和園
 日時：令和7年8月1日～2日
 参加者数：53名



別府平和園の皆さん53名が参加しました。のんびりゆったり思い切り海辺で楽しむプログラムとなっていて、海水浴の合間には暑くても野球大会が始まるといった、キャンプ場を思う存分自由に使う姿が見られました。施設長みずからキャッチャー&盛り上げ役をしてくださいました。夕食はキャンプのお楽しみBBQでした。星空も堪能しスイカも食べて、朝の散歩を楽しむ人もいれば、ゆっくり起きてくる人もいる、これぞまさに outdoor camp。普段の生活では体験できない時間を過ごしました。

かかぢの海も空もひとりじめ！



- ・普段はゲームで遊ぶ子どもたちが、外でよく遊んでいました。
- ・1泊2日でしたが、大満足でした。
- ・職員の皆さんの対応がとても良かったです。



野外活動塾 スキー体験



対 象：森の木、鷹巣学園
 日 時：令和8年1月6日、31日
 参加者数：合計42名

森の木、鷹巣学園の皆さん42名が参加しました。サンマルコ大分スキークラブの7名の方々に丁寧に優しく教えていただき、全員滑れるようになりました。そり滑りの小学生が「次はスキーをしてみたい」と話したり、高校生が「難しいコースに挑戦できたよ!」と報告してくれたり、「もう一回リフトに乗りたかったのに」と悔しそうな表情を見せてくれたりと、それぞれがスキーを楽しんでくれました。

もう一回リフトに乗りたい! 難しいコースも滑れたよ!



- ・冬休みの楽しい思い出の一つになれば、貴重な体験を通して子どもたちが挑戦することで成長できたらと考え、参加を決めました。日頃行事参加に消極的な子どもや新しいことに挑戦することが苦手な子どもも楽しそうな姿が見られました。
- ・うまく滑れるよう果敢にチャレンジする児童が多く、園内では見せない積極的な姿に驚きました。

参加者の声

海フェス

対 象：県民
日 時：令和7年7月13日
参加者：30家族117名



県内各地から多くの方に参加いただき、ご家族で海のアクティビティを楽しんでいただきました。中には親子三世代で参加してくれた方もいて、体験活動を満喫していました。一般的な海水浴では、なかなか体験できないSUPや水上トランポリンが好評で、笑顔が広がっていました。また、ボランティアとして参加してくれた大学生の人材育成の機会になりました。

本気で挑戦！どきどき海体験



- ・気軽に参加できる海でのイベントは親子で楽しめました。来年もまた参加したい。
- ・SUPに初めてチャレンジしましたが子どもは意外とすぐに乗れて楽しんでいました。
- ・スタッフのサポートもあり、海上トランポリンなどが体験でき、楽しかった。
- ・天気にも恵まれ3世代で参加しましたが非常に楽しかった。こういうイベントを続けてほしい。

参加者の声

森フェス



対 象：県内の児童生徒がいるご家庭
 日 時：令和7年11月16日
 参加者：35家族116名

遠くは大分市や日田市から家族で参加された方もいて、それぞれ森の体験活動を満喫されました。各種イベントへは、敷地内に落ちている「どんぐり」を通貨に見立て、各種イベントの参加料として使えるようにしたり、植樹に参加した方への特典として焼きマシュマロのチケットを配布したりするなど、皆さんに喜んでいただけました。木登り体験や植樹、ネイチャークラフト他ジビエ試食会など全部で14個のイベントを開催しました。

ちょこっと経済体験！どんぐりが通貨に！？



- ・子どもがたくさんいろいろな種類の「どんぐり」を拾って楽しそうでした。また参加したい。
- ・木登りは最初難しかったけど登れると楽しかった。
- ・各ブースでは大学生のスタッフが丁寧に対応し教え方も上手で、子どもたちにとっても楽しい経験となりました。
- ・家族で楽しめるイベントで非常に楽しかった、来年も参加したい。

読書活動の充実に向けた「本との出会い広場」



対 象：子ども及びその保護者
日 時：令和7年度
常時開設：通年

～大分県立図書館の本を3か月に一度の割合で入れ替えています～

香々地青少年の家を訪れる子どもとその保護者等に「絵本図書館」を開放しました。宿題と読書をして一息ついたり、キャンプ中の自由時間にごろんと寝転がりみんなでゲーム絵本を見たりする子どもたち。森で虫取りの後に絵本を読んで、休憩して帰るご家族。思い思いの方法で「絵本図書館」を楽しんでいただきました。

木漏れ日や日だまりを楽しんで



- ・本を読んだ後、かかちの森のどんぐりマップを持って探しに行きたくなりました。
- ・本の入れ替わりが楽しみです。読んだ本は自学ノートに書いて記録を残しています。
- ・森フェス「青空絵本図書館」での読み聞かせを親子で楽しみました。

来場者の声

青少年指導者養成講座



対象：大学生及び社会人
 日時：令和7年 8月15日 参加者7名
 10月21日 参加者6名
 令和8年 1月 9日 (中止)

夏・秋・冬のわくわくキャンプの実施に向け、事前大学生研修を行いました。NBU日本文理大学の学生延べ13名が参加し、事業の趣旨や安全管理、役割分担を理解しました。研修では、活動に伴うリスクの捉え方や子どもとの関わり方を学び、現場実践を通して判断力や対応力を高めました。キャンプでの実践を通して、体験活動の価値や重要性を理解し、体験活動を支える力を身につける研修となりました。

学びの一步、実践を未来へ



- ・大学生サポーターとしてキャンプに参加する中で、初めての頃と比べ「人との接し方」が上達したと感じました。様々な世代と関われる、このキャンプならではの貴重な研修となりました。
- ・子どもたちが避難や消火の方法を自分たちで考える姿を見て、やり方は違っても助ける方法の一つではないことに気づいてもらえた点が良かった。
- ・初めてのことも多かったが、同じ大学生サポーターや所員の支えで乗り越えられました。班の仲間が主体的に助け合う姿に感動しました。

参加者の声

03 子どもの体験活動拡充「わくわくキャンプ」



（悪天候のため中止）

04 郷土の環境を活かした体験活動「香々地・九重自然学校」



（悪天候のため中止）

05 宇宙教育推進に向けた体験活動「香々地宇宙学校」



07 体験活動推進に向けた啓発活



【運営について】

○体験型・参加型のプログラムを中心に構成したことで、理解や記憶に残りやすい学びを提供できた。なお、所員と大学生サポーターが組織的に運営することで、規模や内容の充実した事業を実施できた。

●活動内容や教材の難易度が参加者の年齢層に合わない場面があった。

【集客について】

○参加者数2004名（フェスの延べ人数を含む）と目標の1000人を上回った。また、昨年度（1,862名）と比較し、約8%増加した。

○森フェスについては、当日参加を可能としたことで、事前申込みが難しい来所者にも柔軟に対応することができ、参加機会の拡充につながった。

●募集人数に対して申込数が伸びない事業もあり、広報や募集時期の見直しが必要である。

●「夕暮れSUPお泊り会」「わくわくウインターキャンプ」については悪天候のため、中止となった。中止に伴い、事業に準備した消耗品の未使用品が委託対象外経費となり、予算面に課題を残した

【満足度について】

○実体験を通じて、天体や防災などへの関心が高まり、「家庭でも続けたい」「印象に残った」という声が多く見られた。（参加者のアンケート結果は肯定的）

○少人数での開催になってしまった事業もあるが、その分丁寧なサポートや1人ひとりの体験の場が確保され、高い満足度につながった。

○新規の取組として、魚釣り体験や魚捌き体験、防災キャンプ、革細工体験などの活動を計画・実施することができた。これにより、今後の事業展開における活動内容の幅を広げることができた。

○宿泊を伴う事業においては、単発的な活動にとどまらず、活動同士のつながりを感じられるよう企画・運営を行い、参加者が日々の活動を通して成長を実感できるよう努めた。

【各種団体との連携について】

○昨年度から多くの企業や団体に連携していただき、活動を充実させることができた。

【広報について】

○OHPと併用してSNS（Instagram/Facebook）等を活用した。特に、Instagramでは、活動の様子が分かる魅力的な写真を中心として、定期的に宣伝した。

●次年度の広報のツールを現在検討中。

【教育的効果について】

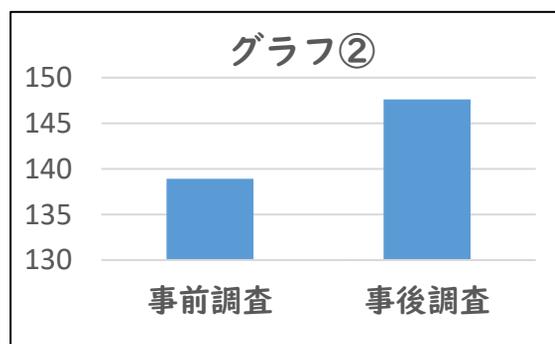
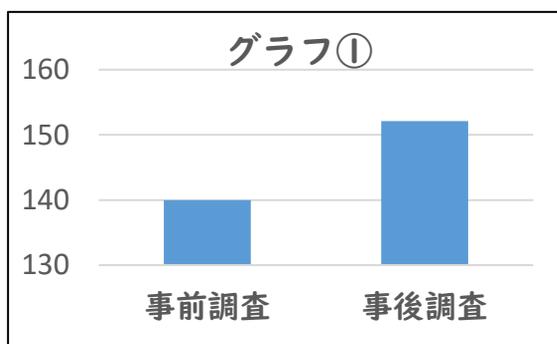
○自己効力感や生きる力の向上を目的として行った「わくわくサマーキャンプ」および「防災忍術を学ぶ！秋の防災忍者キャンプ」において、参加者を対象にIKRアンケートを実施した。その結果、どちらも生きる力の向上があった。

★わくわくサマーキャンプ（3泊4日）

心理的社会的能力が5.7ポイント、徳育的能力が3.4ポイント、身体的能力が2.9ポイント、生きる力は12.1ポイント向上。[グラフ①参照]

★防災忍術を学ぶ！秋の防災忍者キャンプ（1泊2日）

心理的社会的能力が4.7ポイント、徳育的能力が2.5ポイント、身体的能力が1.5ポイント、生きる力は8.7ポイント向上。[グラフ②参照]



本事業の実施にあたり、
多くの企業・団体・教育機関の皆さまに
多大なるご支援・ご協力を賜りました。
心から感謝申し上げます。

企業・団体様

- マリンショップ Buzz 株式会社カレラワークス
- 有限会社福田林業 杵築森のあそび隊
- 豊後高田椎茸農園
- くじゅう森林公園スキー場
- 日本減災対策株式会社 NGT
- 大分天文協会
- サンマルコ大分スキークラブ

行政・教育関係機関

- 日本文理大学人間力育成センター
- 大分県立図書館
- 大分県北部地区森林・林業活性化協議会
- 大分県食生活推進協議会「ヘルスマイト」
- 大分県北部振興局



香々地青少年の家

〒872-1202 大分県豊後高田市香々地5151番地

TEL：0978-54-2096 FAX：0978-54-2152

E-mail：a31514@pref.oita.lg.jp



海と島のミュージアム 香々地青少年の家



九重青少年の家

〒879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野204-47

TEL：0973-79-3114 FAX：0973-79-3115

E-mail：a31515@pref.oita.lg.jp



九重青少年の家



体験の風を おこそう

